

体験を通して学ぶボランティア講座第1回報告

2013年5月27日(月) 13:30~15:30、社会福祉センター 地下研修室で
開催された開講記念講演会での名和田是彦氏のお話を一部抜粋しました。

テーマ：人と人がつながるまちづくり

講師：名和田 是彦氏（法政大学法学部教授・佐倉市市民協働推進委員会委員長）

これからの地域福祉の諸課題を考えてみよう

★わかりやすくしかも重要な課題で活動しよう

防災、防犯、見守り、挨拶・声かけ、サロン活動、地域の中で隠れている課題や人材を発掘

★活動資金の問題

活動資金は必要です。農村部では、有償ボランティアはあたりまえになっていますが、都市部ではあまり浸透していません。ではどう財源確保をするのか…

●行政や専門機関の助成金・指定管理料

●寄付金

●ボランティア活動の中で専門性を高めて収益事業へと発展させる

交流拠点を作るために、収益事業は必要

●自治会・町内会からの援助

協働の活動を通じてノーマライゼーションの理念が普通の市民文化となる社会を築こう

他人任せにしない、地域活動をしていきましょう。

挨拶・声かけは重要です！

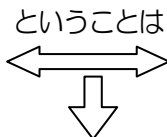
私たちは、日常の挨拶や声かけによって、自分を価値ある人間として認めてもらおうという社会的承認をお互いにしています。これは精神的な欲求です。

例えば、「暑いですねえ」という会話は、情報交換としては、何の意味もありませんが、こういう言葉を交わすことで、お互いの存在を認め合っているのです。

また、子育て中の若いお母さんは、精神的なストレスを抱えていることが多く、些細な言葉で一喜一憂するといいます。子どものことを「うるさい」と言われると落ち込むし、「かわいい」と言われると有頂天になるそうです。このように、お互いを認め合う声かけは、自信回復につながりとても大切なのです。

これからの地域福祉活動、はじめの一歩となるものは…

顔の見える関係をつくる
(共同の関係)



↑ ↓
← →
↓
まだ顔の見えていない人(不特定多数の人たち)と出会い、交流しなければならない。
(公共の関係)

地域での
様々な取り組み

交流の場づくりが全国で多様に展開中
サロン活動→常設(佐倉では、志津地区社協運営)、コミュニティカフェ等

★新潟市の「うちの実家」…会員制。不特定多数の人達の居場所をつくった。(3月で活動終了)

★横浜市若葉台「ふれあいにし」

…昔の中学校を利用した地域交流サロン

★横浜港南台「タウンカフェ」

★横浜市戸塚「ふらっとステーション・ドリーム」他

以上のように様々な形の公共の場づくりが行われています。しかし、民間で運営していくには、特に資金面で難しいとされ、活動休止していくところも少なくありません。それでも、コミュニティカフェは増えていっています。飲食だけの運営では継続が難しい場合がありますが、例えば壁をギャラリー(利用料金有)にしたり、小箱ショップ(棚の一面をレンタルしてもらい[レンタル料有]、自作のものや小物を販売してもらう形)で、空間を最大限利用していく方法もあります。

私たちは、仲間うちの親密な関係になりがち！

人の輪を広げるには、外の世界との接点をもつ

自分の仲間でない人を受け入れて、不特定多数の中で交流できる場が必要になります。



港南台タウンカフェの小箱ショップ